

県の自然史系博物館構想

調査研究、教育を重視

県は整備構想を掲げる自然史系博物館について、資料の収集保管を担ってきた「県自然学習資料センター」を調査研究や展示・情報発信、教育の各機能も重視した施設とする方針を固め、20

13年度、本格的な移転整備事業に着手する。

今春の再編統合で校舎

が使われなくなる静岡南高（静岡市駿河区）を改修して使う。近くにある静岡大との連携も見据える。13年度当初予算に約

3億円を計上して設計と工事に入り、14年度中のオープンを目指す。

センターは、教室に区切られた3階建ての校舎の構造を生かし、化石・岩石や動物、植物、昆虫などの種類ごとに標本保管

移転整備、本格着手へ

室を整備する。常設展示室や関連講座を開く実習室も設ける。保管に適した空調設備も導入する。

センターに多様な機能を持たせる際に課題となる運営体制は今後、早急に検討を進めていく。収集保管業務や出前講座を委託しているNPO法人

「県自然史博物館ネットワーク」に引き続き協力してもらったことも視野に入れていく。

貝類など多様な標本・資料の散逸防止を目的に03年度から収集整理や評価を実施し、これまでに27万点以上を集めた。うち約8万7千点の評価を終え、特筆すべき資料とされるSAランクが約250点含まれる。

現センターが入っている旧中部健康福祉センタ

ー庵原分庁舎（同市清水区）は手狭で老朽化し、同校の活用の可能性を探ってきた。

県は植物や昆虫、化石、